

ひらしか

第34回 景気動向レポート

2020年4～6月期

○概要

調査時期 令和2年6月上旬
 調査地域 平塚市、厚木市、相模原市、大和市、
 伊勢原市、秦野市、座間市、
 海老名市、茅ヶ崎市、高座郡、愛甲郡

全調査先 当金庫取引先 319先
 回答先数 当金庫取引先 319先
 (内訳) 製造業：63先
 卸売業：19先
 小売業：47先
 サービス業：75先
 建設業：85先
 不動産業：30先

回答率 100%

○調査方法

当金庫職員による面接聞き取り方式、または、
 調査先による直接記入・回収方式

○分析方法

D I (Diffusion Index)

D Iとは、各質問項目に対して「良い(増加・上昇)」
 と回答された企業の割合から「悪い(減少・下降)」
 と回答された企業の割合を差引いて算出した指標です。

D Iがプラスであれば上向き、0であれば現状維持、
 マイナスであれば下向きというように判断できます。

業況D Iの推移 (業種別D I天気図)

	2019年 4-6月期	2019年 7-9月期	2019年 10-12月期	2020年 1-3月期 (前期)	2020年 4-6月期 (当期)	2020年 7-9月期 (予想)
製造業	☞ ☁	☞ ☁	☞ ☁	☞ ☁	☞ ☁	☞ ☁
卸売業	☞ ☁	☞ ☁	☞ ☁	☞ ☁	☞ ☁	☞ ☁
小売業	☞ ☁	☞ ☁	☞ ☁	☞ ☁	☞ ☁	☞ ☁
サービス業	☞ ☁	☞ ☁	☞ ☁	☞ ☁	☞ ☁	☞ ☁
建設業	☞ ☁	☞ ☁	☞ ☁	☞ ☁	☞ ☁	☞ ☁
不動産業	☞ ☁	☞ ☁	☞ ☁	☞ ☁	☞ ☁	☞ ☁
全業種	☞ ☁	☞ ☁	☞ ☁	☞ ☁	☞ ☁	☞ ☁



全業種

今期：業況・売上・収益D | 共に悪化

来期：業況・売上・収益D | 共に改善の見込み

2020年4～6月期の当金庫営業地区内における業況DIは、対前期比▲39.4ポイントの▲48.9となり、全ての業種で悪化となりました。

売上DIについては、対前期比▲45.7ポイントの▲54.8となり、収益DIは対前期比▲39.6ポイントの▲51.6となりました。

その他のDIでは、販売・料金・請負価格DIは対前期比▲8.8ポイントの▲10.4、仕入・原材料・材料価格DIについても対前期比▲10.2ポイントの2.5となり共に2期連続低下となりました。資金繰りDIについては、対前期比▲22.4ポイントの▲30.9となり2期連続低下、人手DIは対前期比+23.4ポイントの▲4.7と3期連続上昇となりました。

来期（2020年7～9月期）の業況予想では、小売業を除く全業種で改善を予想しており、全業種総合の業況DIは、対当期比+6.6ポイントの▲42.3と改善を見込んでいます。

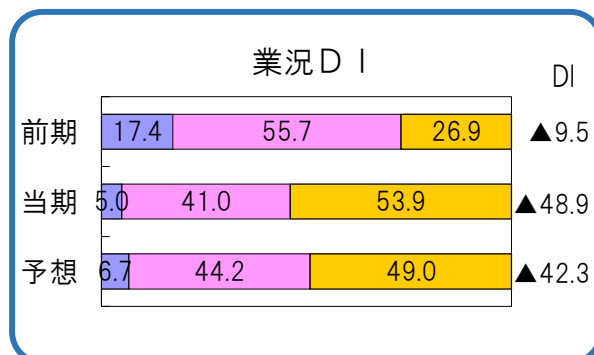
主要DI構成



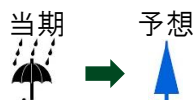
○業況DI



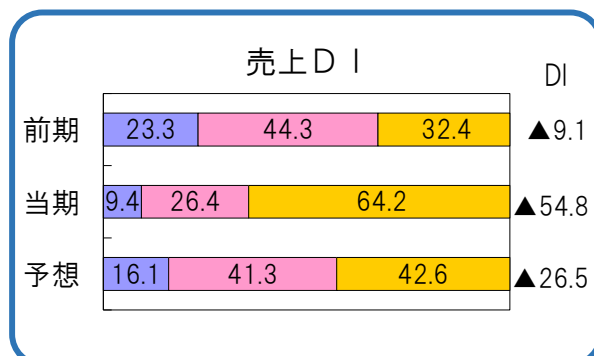
業況DIは、対前期比▲39.4ポイントの▲48.9(前年同期9.1・前回予想との差▲25.3)となりました。全業種で悪化したことから、業況DIは大幅な悪化となりました。今後の業況DIは、小売業を除く全業種で改善を予想していることから、対当期比+6.6ポイントの▲42.3と改善を見込んでいます。



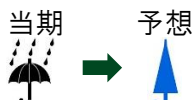
○売上DI



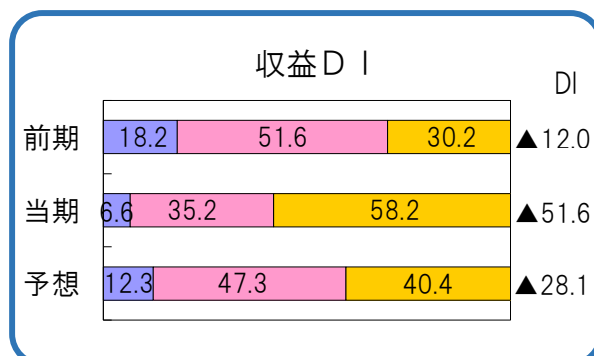
売上DIは、対前期比▲45.7ポイントの▲54.8(前年同期5.4・前回予想との差▲36.5)となりました。全業種で悪化したことから、売上DIは大幅な悪化となりました。今後の売上DIは、全業種で改善を予想していることから、対当期比+28.3ポイントの▲26.5と大幅な改善を見込んでいます。



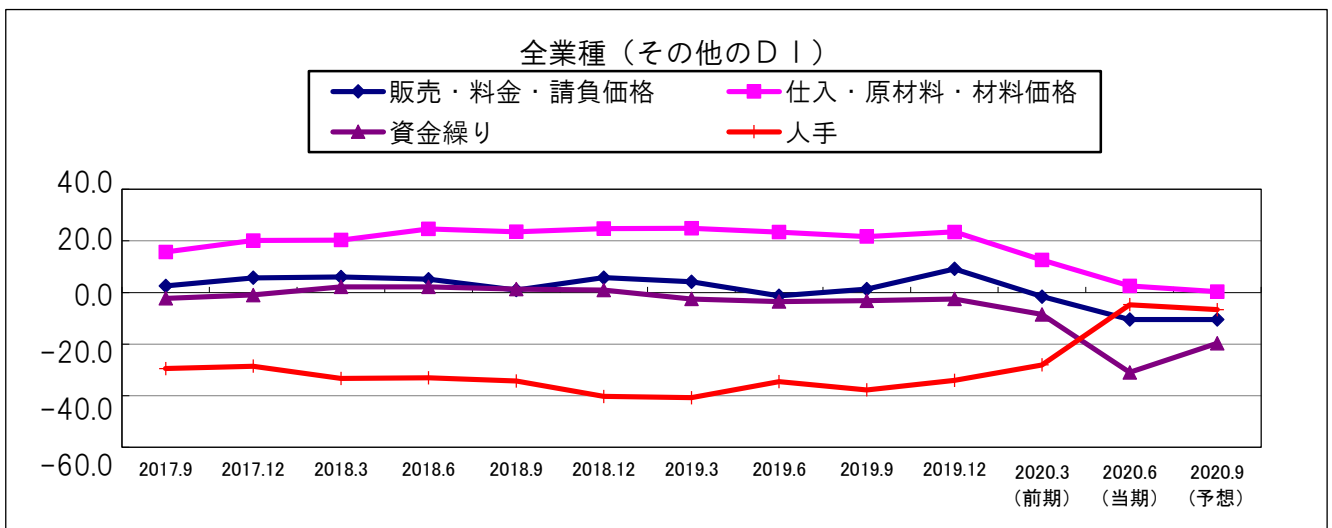
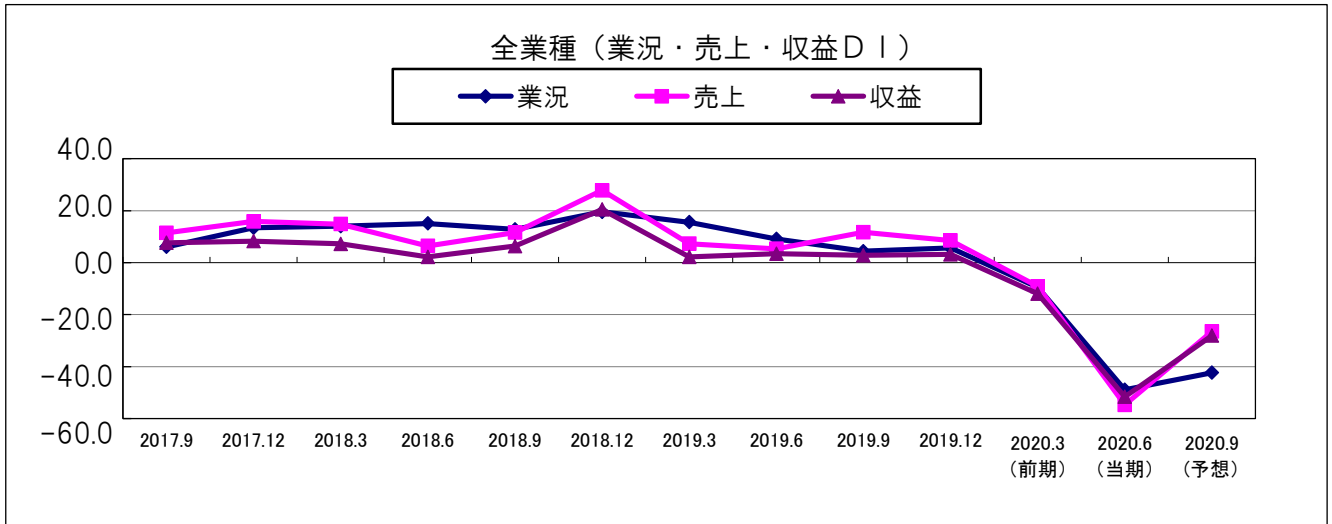
○収益DI



収益DIは、対前期比▲39.6ポイントの▲51.6(前年同期3.5・前回予想との差▲34.2)となりました。全業種で悪化したことから、収益DIは大幅な悪化となりました。今後の収益DIは、全業種で改善を予想していることから、対当期比+23.5ポイントの▲28.1と大幅な改善を見込んでいます。



DIの推移



経営サポートセンターNEWS

“地域の魅力をInstagramで発信！！ Deep圏央道スタート！！”

圏央道沿線の5つの信用金庫（平塚信金・水戸信金・埼玉縣信金・千葉信金・多摩信金）による連携協定「しんきん圏央道アライアンス」では、6月15日「信用金庫の日」にSNS「Instagram」公式アカウントの投稿を開始いたしました。

この取組みは、日本財団「わがまち基金」を活用した地域創生支援スキーム「信用金庫の広域連携による圏央道沿線地域の『地域資源』『地域産品』の発掘・発信プロジェクト」の一環として実施するものです。

各信用金庫職員が「地域レポーター」となり、信用金庫職員だからこそ知っている隠れた名産品や自然景観などを掘り起こし、地域の魅力として発信していきます。

【SNS「Instagram」公式アカウント】 ⇒ @deep_shinkin_central_area

アカウント名：Deep圏央道

コンセプト：信用金庫の「地域レポーター」と「ディーピー」が圏央道沿線の5つの地域から旬な情報をお届けします。

企画：しんきん圏央道アライアンス

運営：アルピン株式会社



ぼくの名前は「ディーピー」。
地域の魅力を「深掘り」しながら発信していくよ。



（フォローはこちら）

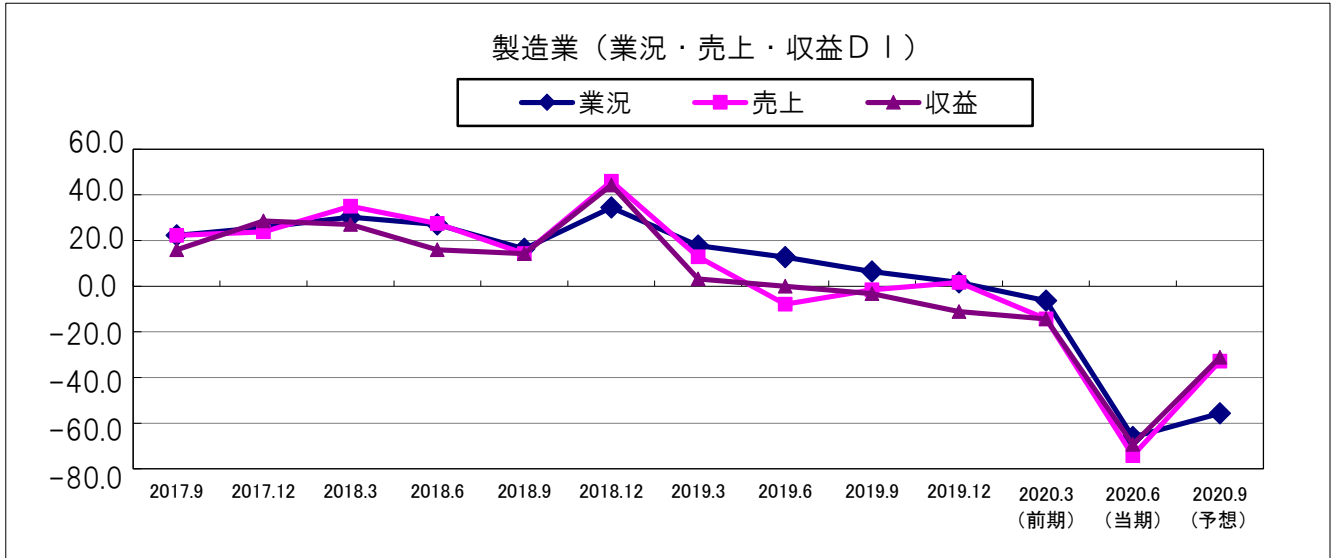
〈お問合せ先〉 営業統括部 経営サポートセンター 〒254-0043 平塚市紅谷町11-19
TEL 0463-24-3031 E-mail: sb1286100@hiratsuka-shinkin.jp
（担当：小池・尾崎・山崎・長山・猪股・小宮）

製造業

今期：業況・売上・収益D I 共に悪化

来期：業況・売上・収益D I 共に改善の見込み

主要D I 推移



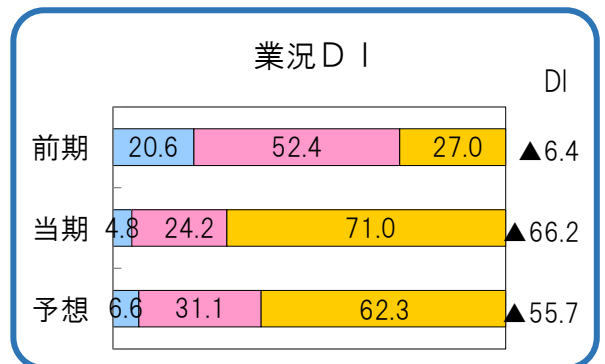
主要D I 構成



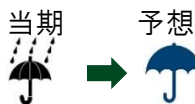
○業況D I



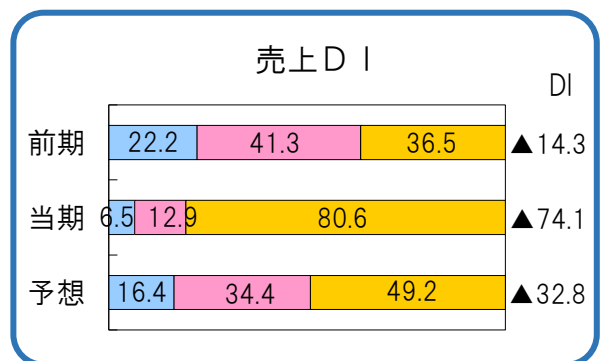
業況DIは、対前期比▲59.8ポイントの▲66.2(前年同期12.7・前回予想との差▲39.2)となりました。売上DI・収益DI共に悪化したことから、業況DIは6期連続悪化となりました。今後の業況DIについては、対当期比+10.5ポイントの▲55.7と改善を見込んでいます。



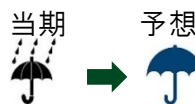
○売上D I



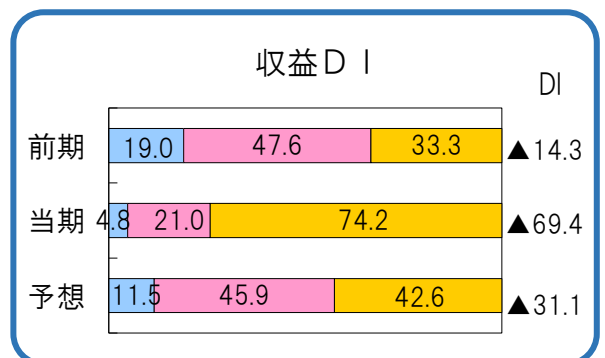
売上DIは、対前期比▲59.8ポイントの▲74.1(前年同期▲7.9・前回予想との差▲47.1)と2期連続悪化となりました。今後の売上DIについては、受注残DIの大幅な上昇を見込んでいることから、対当期比+41.3ポイントの▲32.8と大幅な改善を見込んでいます。



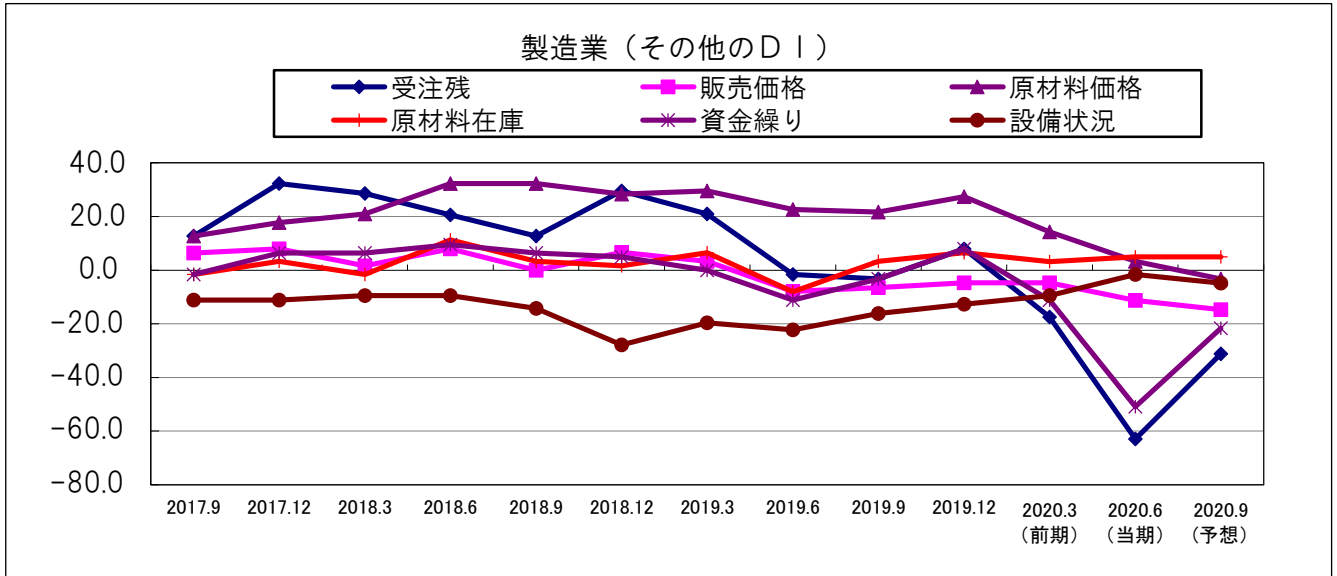
○収益D I



収益DIは、対前期比▲55.1ポイントの▲69.4(前年同期0.0・前回予想との差▲50.4)と6期連続悪化となりました。今後の収益DIについては、対当期比+38.3ポイントの▲31.1と大幅な改善を見込んでいます。



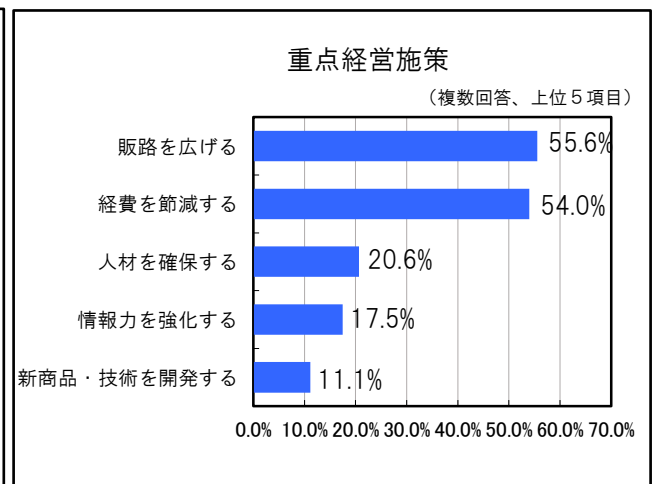
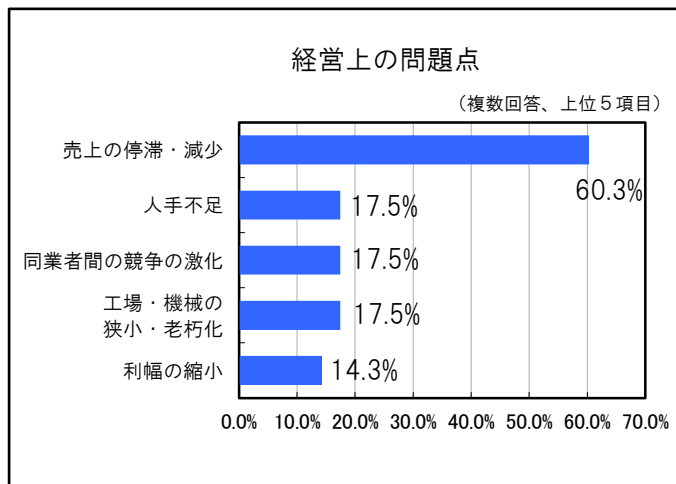
その他のD I 推移



○その他のD I

対前期比でみると、受注残DIは▲45.4ポイントの▲62.9、販売価格DIは▲6.5ポイントの▲11.3、原材料価格DIは▲11.0ポイントの3.3、原材料在庫DIは+1.7ポイントの4.9、資金繰りDIは▲39.7ポイントの▲50.8、設備状況DIは+7.9ポイントの▲1.6となりました。今後は、受注残DI・原材料在庫DI・資金繰りDIは上昇、販売価格DI・原材料価格DI・設備状況DIは低下を見込んでいます。

経営課題・重点施策



【経営課題】

経営上の問題点として挙げられたのは「売上の停滞・減少」が60.3%と最も多く、次いで「人手不足」と「同業者間の競争の激化」「工場・機械の狭小・老朽化」が共に17.5%、「利幅の縮小」が14.3%となりました。

【重点施策】

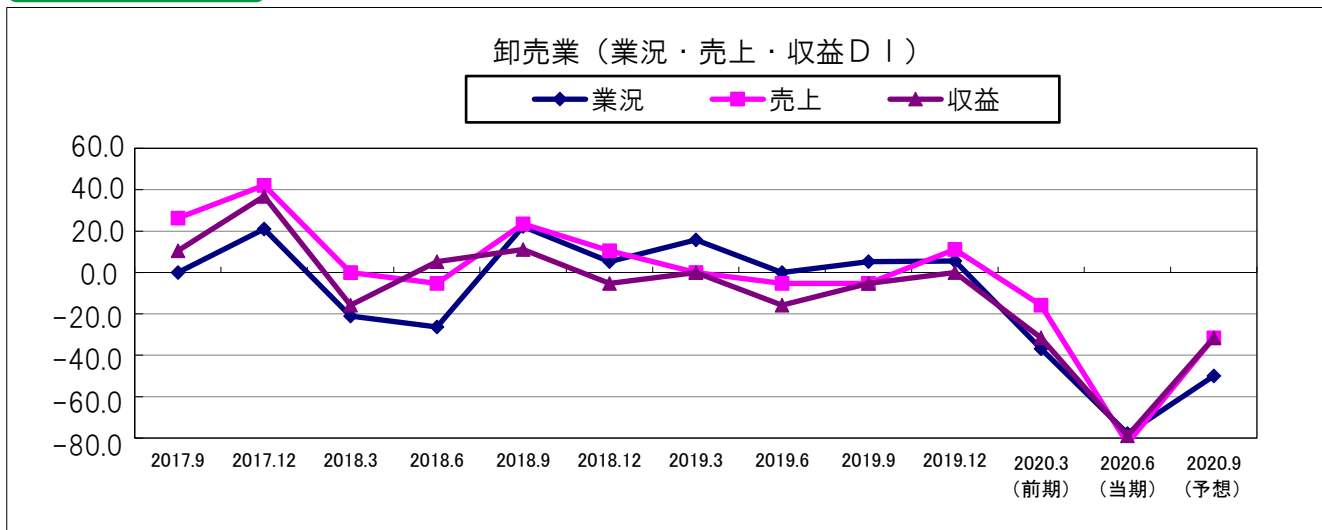
当面の重点経営施策として挙げられたのは「販路を広げる」が55.6%と最も多く、次いで「経費を節減する」54.0%、「人材を確保する」20.6%、「情報力を強化する」17.5%、「新商品・技術を開発する」が11.1%となりました。

卸売業

今期：業況・売上・収益D I 共に悪化

来期：収益・業況・売上D I 共に改善の見込み

主要D I 推移

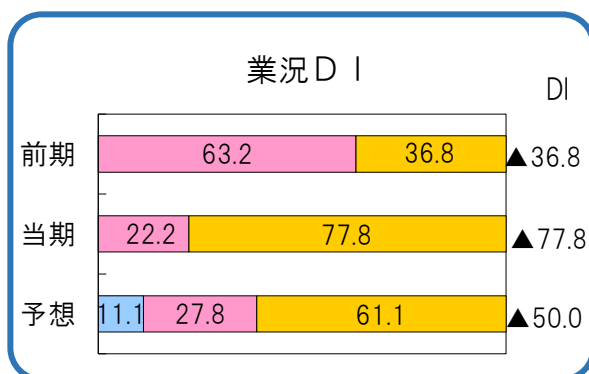
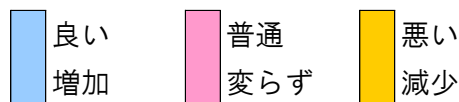


主要D I 構成

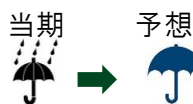
○業況D I



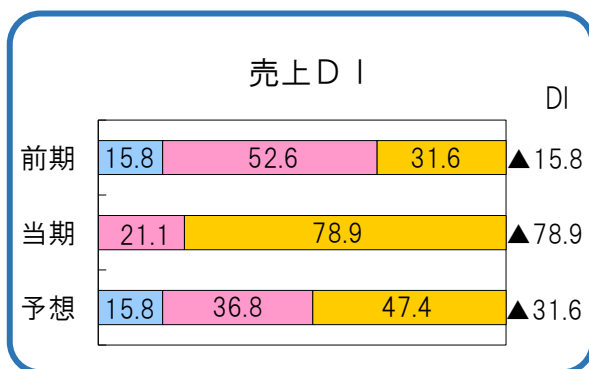
業況DIは、対前期比▲41.0ポイントの▲77.8（前年同期0.0・前回予想との差▲41.0）と2期連続悪化となりました。売上DI・収益DI共に悪化したことから、業況DIは大幅な悪化となりました。今後の業況DIについては、対当期比+27.8ポイントの▲50.0と大幅な改善を見込んでいます。



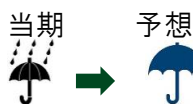
○売上D I



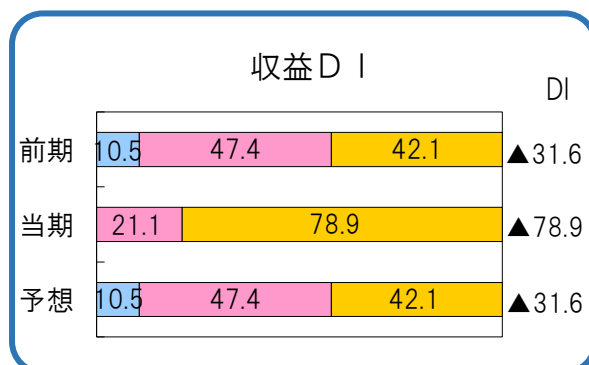
売上DIは、対前期比▲63.1ポイントの▲78.9（前年同期▲5.3・前回予想との差▲51.1）となりました。今後の売上DIについては、販売価格DIの上昇と在庫DIの低下を予想していることから、対当期比+47.3ポイントの▲31.6と大幅な改善を見込んでいます。



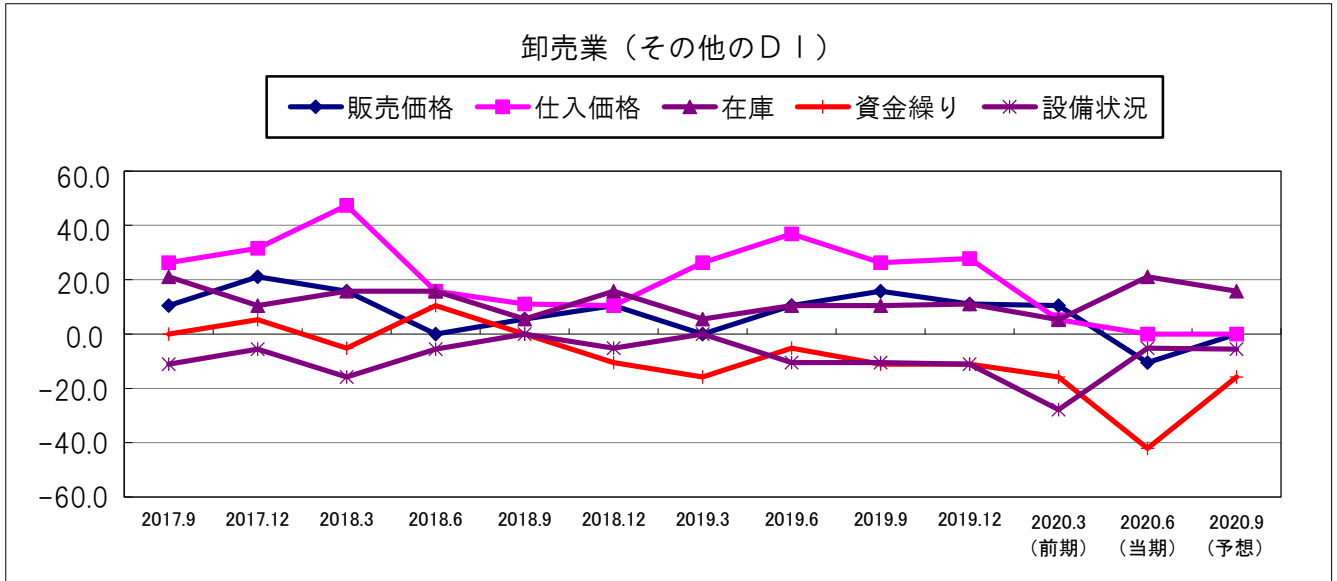
○収益D I



収益DIは、対前期比▲47.3ポイントの▲78.9（前年同期▲15.8・前回予想との差▲56.7）と2期連続悪化となりました。今後の収益DIについては、販売価格DIの上昇を予想していることから、対当期比+47.3ポイントの▲31.6と大幅な改善を見込んでいます。



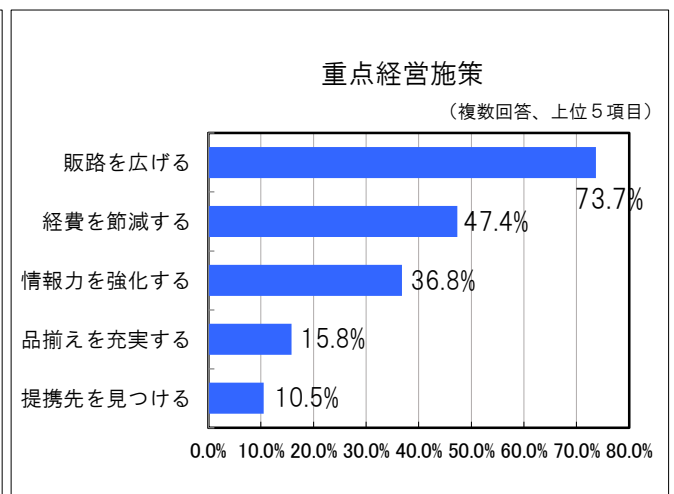
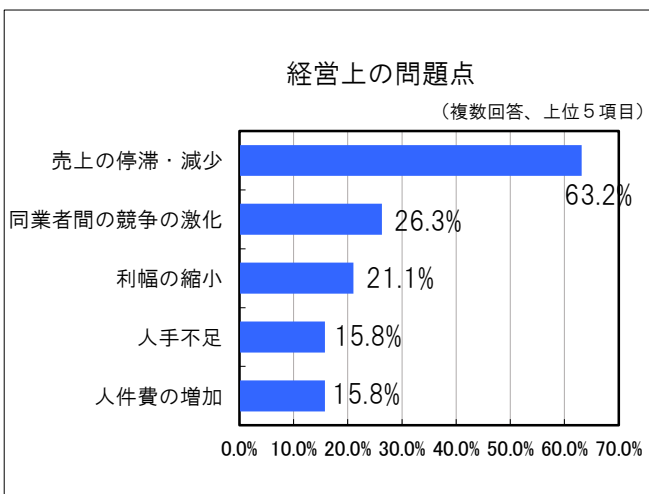
その他のD I 推移



○その他のD I

対前期比でみると、販売価格DIは▲21.0ポイントの▲10.5、仕入価格DIは▲5.3ポイントの0.0、在庫DIは+15.8ポイントの21.1、資金繰りDIは▲26.3ポイントの▲42.1、設備状況DIは+22.5ポイントの▲5.3となりました。今後は、販売価格DI・資金繰りDIは上昇、仕入価格DIは横ばい、在庫DI・設備状況DIは低下を見込んでいます。

経営課題・重点施策



【経営課題】

経営上の問題点として挙げられたのは「売上の停滞・減少」が63.2%と最も多く、次いで「同業者間の競争の激化」26.3%、「利幅の縮小」21.1%、「人手不足」と「人件費の増加」が共に15.8%となりました。

【重点施策】

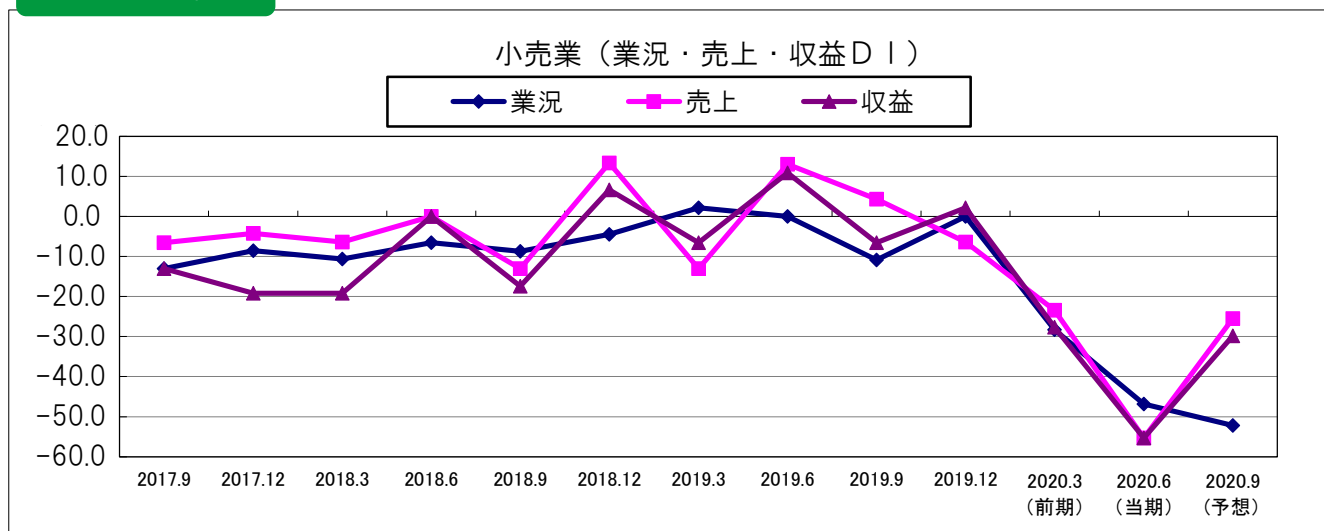
当面の重点経営施策として挙げられたのは「販路を広げる」が73.7%と最も多く、次いで「経費を節減する」47.4%、「情報力を強化する」36.8%、「品揃えを充実する」15.8%、「提携先を見つける」10.5%となりました。

小売業

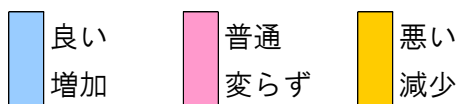
今期：業況・売上・収益D I 共に悪化

来期：売上・収益D I は改善、業況D I は悪化の見込み

主要D I 推移



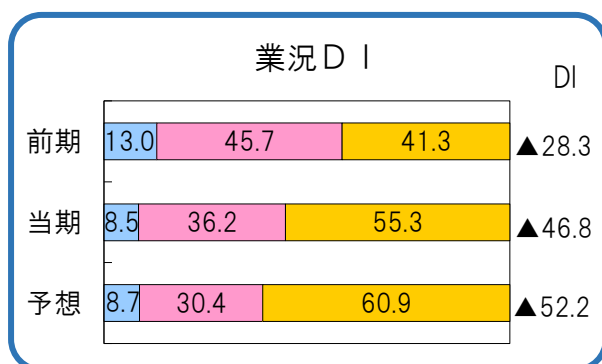
主要D I 構成



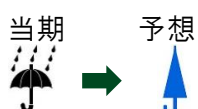
○業況D I



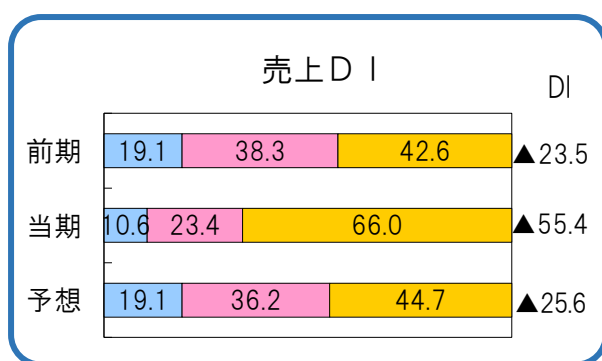
業況D Iは、対前期比▲18.5ポイントの▲46.8(前年同期0.0・前回予想との差▲6.8)と2期連続悪化となりました。売上D I・収益D I共に悪化したことから、業況D Iは大幅な悪化となりました。今後の業況D Iについては、対当期比▲5.4ポイントの▲52.2と悪化を見込んでいます。



○売上D I



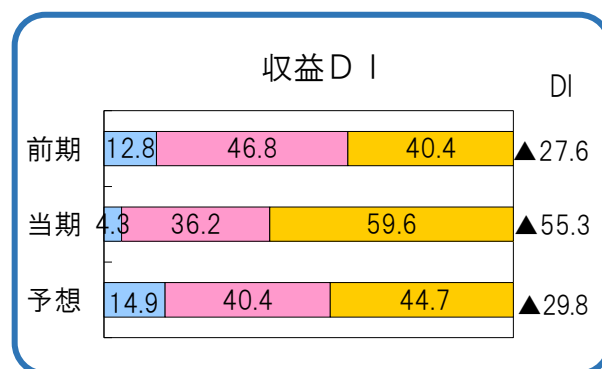
売上D Iは、対前期比▲31.9ポイントの▲55.4(前年同期13.0・前回予想との差▲25.6)となりました。販売価格D Iが大幅に低下したことから、売上D Iは4期連続悪化となりました。今後の売上D Iについては、対当期比+29.8ポイントの▲25.6と大幅な改善を見込んでいます。



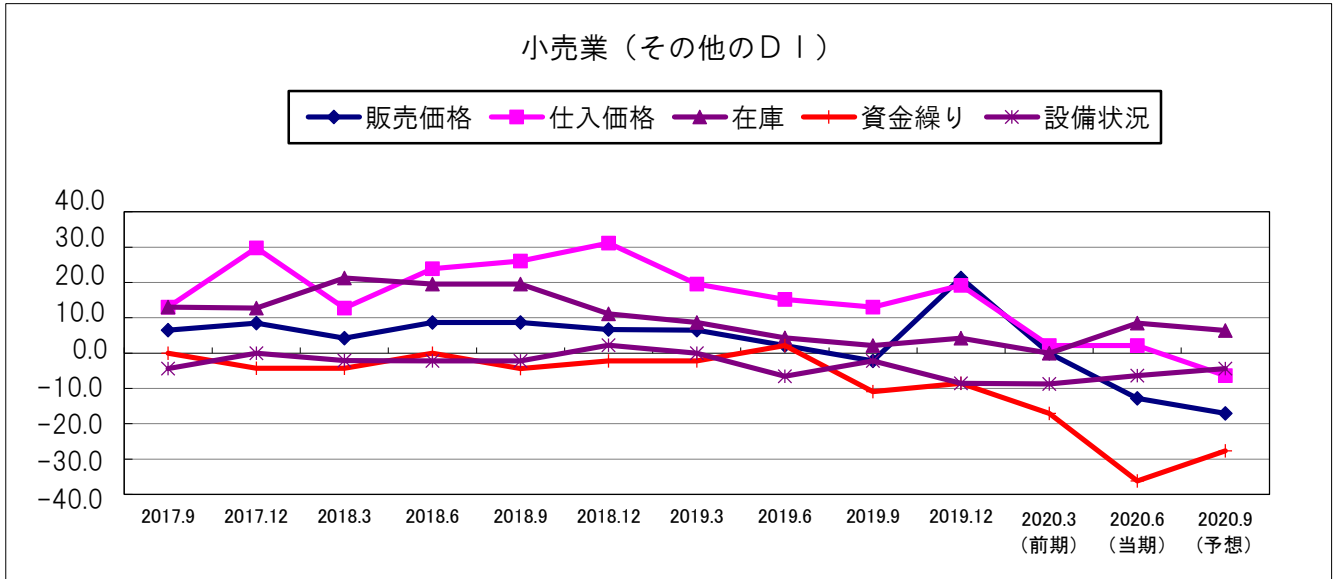
○収益D I



収益D Iは、対前期比▲27.7ポイントの▲55.3(前年同期10.9・前回予想との差▲25.5)となりました。販売価格D Iが大幅に低下したことから、収益D Iは2期連続悪化となりました。今後の収益D Iについては、対当期比+25.5ポイントの▲29.8と大幅な改善を見込んでいます。



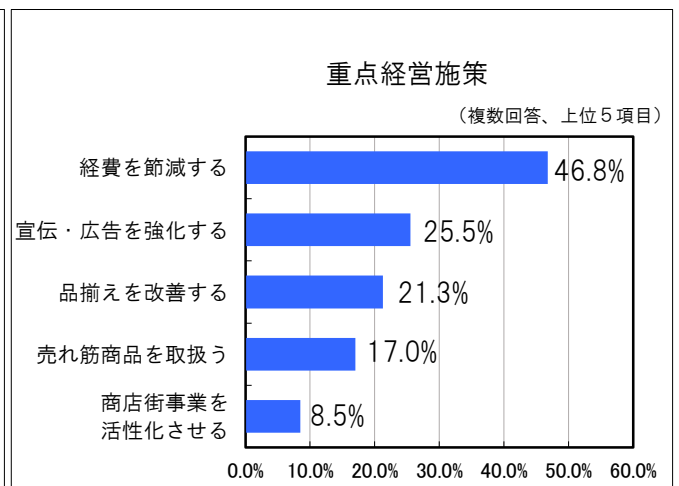
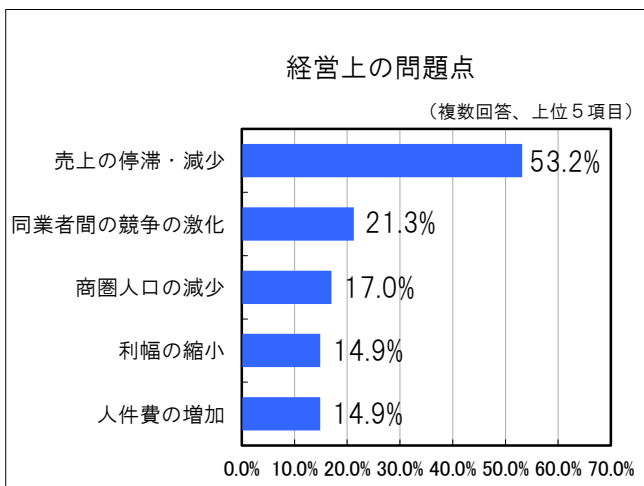
その他のD I 推移



○その他のD I

対前期比でみると、販売価格DIは▲12.8ポイントの▲12.8、仕入価格DIは横這いの2.1、在庫DIは+8.5ポイントの8.5、資金繰りDIは▲19.2ポイントの▲36.2、設備状況DIは+2.3ポイントの▲6.4となりました。今後は、資金繰りDI・設備状況DIは上昇、販売価格DI・仕入価格DI・在庫DIは低下を見込んでいます。

経営課題・重点施策



【経営課題】

経営上の問題点として挙げられたのは「売上の停滞・減少」が53.2%と最も多く、次いで「同業者間の競争の激化」21.3%、「商圏人口の減少」17.0%、「利幅の縮小」と「人件費の増加」が共に14.9%となりました。

【重点施策】

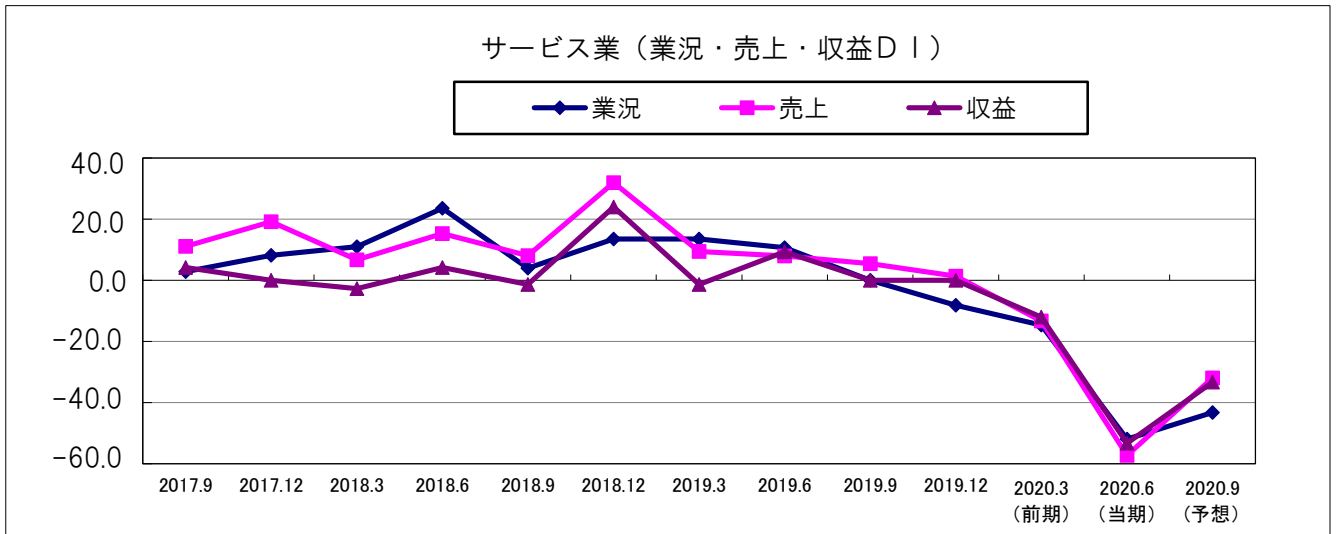
当面の重点経営施策として挙げられたのは「経費を節減する」が46.8%と最も多く、次いで「宣伝・広告を強化する」25.5%、「品揃えを改善する」21.3%、「売れ筋商品を取扱う」17.0%、「商店街事業を活性化させる」8.5%となりました。

サービス業

今期：業況・売上・収益D I 共に悪化

来期：業況・売上・収益D I 共に改善の見込み

主要D I 推移

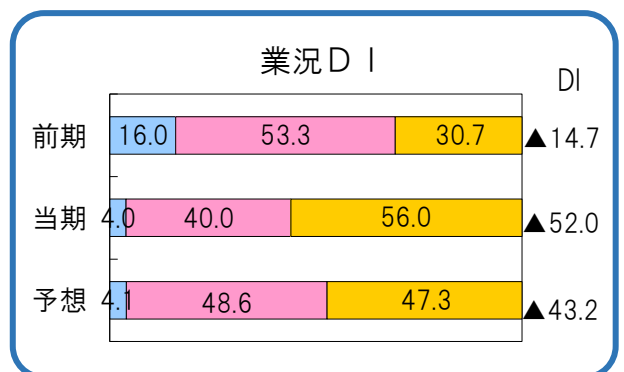
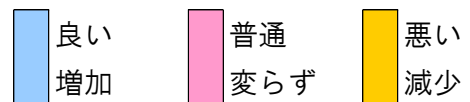


主要D I 構成

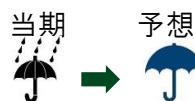
○業況D I



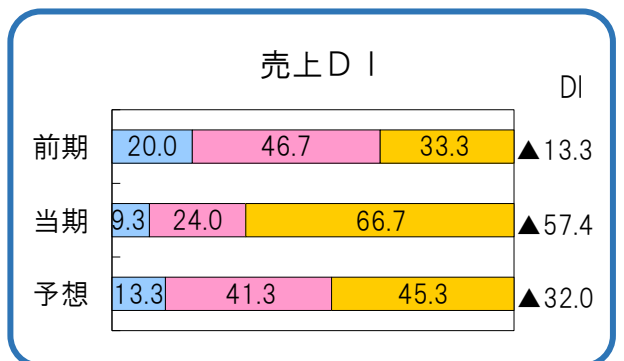
業況DIは、対前期比▲37.3ポイントの▲52.0(前年同期10.7・前回予想との差▲37.3)となりました。売上DI・収益DI共に悪化したことから、業況DIは5期連続悪化となりました。今後の業況DIについては、対当期比+8.8ポイントの▲43.2を見込んでいます。



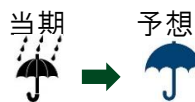
○売上D I



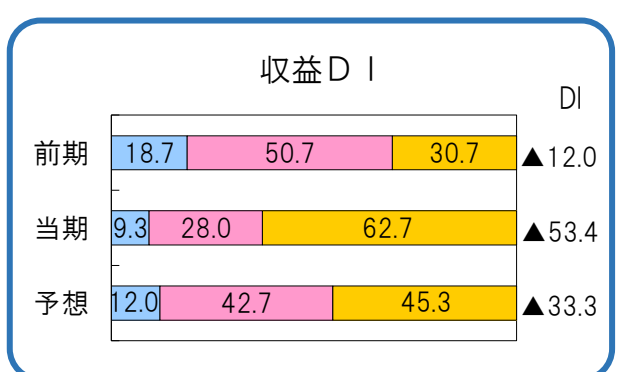
売上DIは、対前期比▲44.1ポイントの▲57.4(前年同期8.0・前回予想との差▲53.4)と6期連続悪化となりました。今後の売上DIについては、対当期比+25.4ポイントの▲32.0と大幅な改善を見込んでいます。



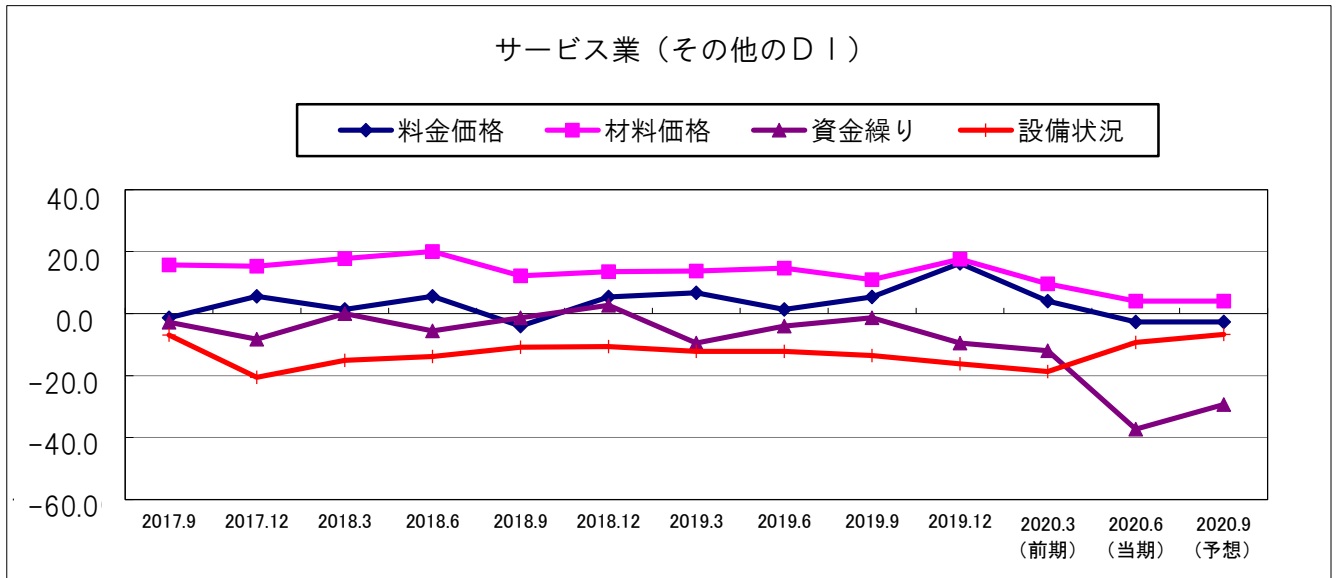
○収益D I



収益DIは、対前期比▲41.4ポイントの▲53.4(前年同期9.3・前回予想との差▲42.7)と2期連続悪化となりました。今後の収益DIについては、対当期比+20.1ポイントの▲33.3と大幅な改善を見込んでいます。



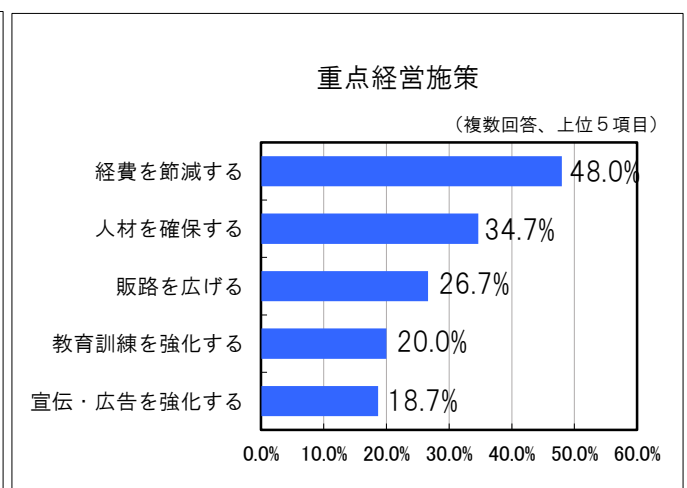
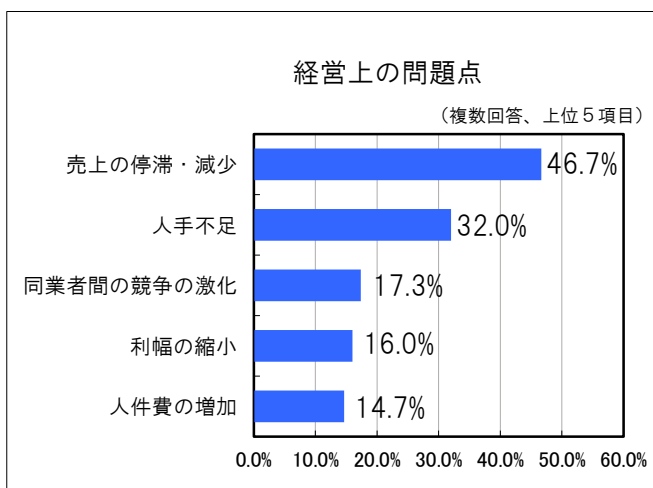
その他のD I 推移



○その他のD I

対前期比でみると、料金価格DIは▲6.7ポイントの▲2.7、材料価格DIは▲5.6ポイントの4.0、資金繰りDIは▲25.3ポイントの▲37.3、設備状況DIは+9.4ポイントの▲9.3となりました。今後は、料金価格DI・材料価格DIは横這い、資金繰りDI・設備状況DIは上昇を見込んでいます。

経営課題・重点施策



【経営課題】

経営上の問題点として挙げられたのは「売上の停滞・減少」が46.7%と最も多く、次いで「人手不足」32.0%、「同業者間の競争の激化」17.3%、「利幅の縮小」16.0%、「人件費の増加」14.7%の順番となりました。

【重点施策】

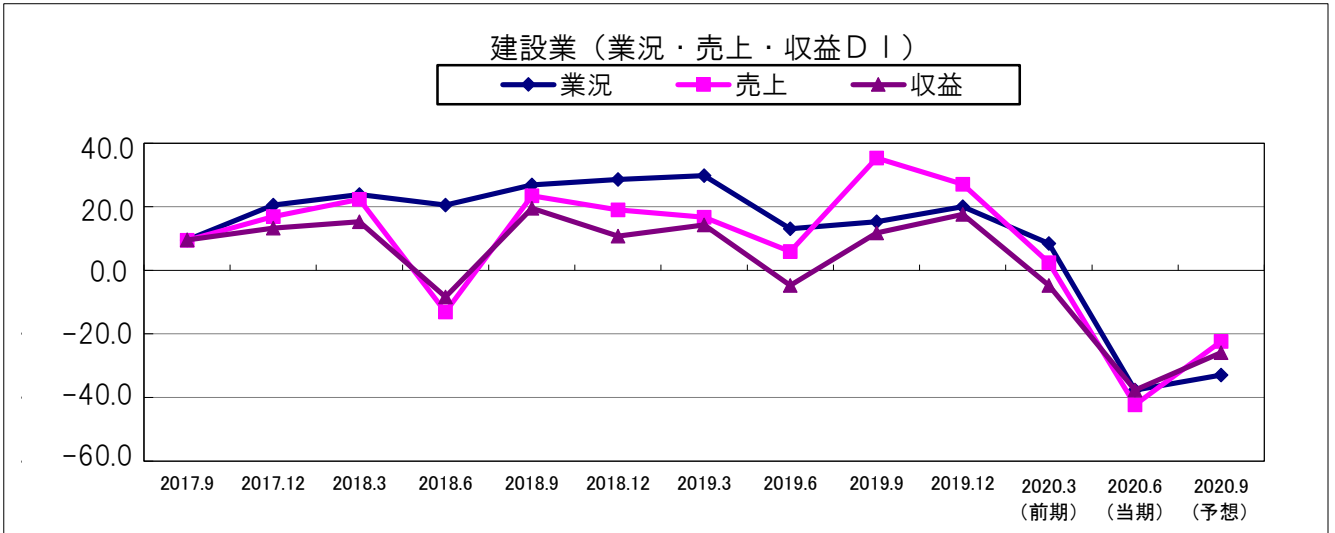
当面の重点経営施策として挙げられたのは「経費を節減する」が48.0%と最も多く、次いで「人材を確保する」34.7%、「販路を広げる」26.7%、「教育訓練を強化する」20.0%、「宣伝・広告を強化する」18.7%の順番となりました。

建設業

今期：業況・売上・収益D | 共に悪化

来期：業況・売上・収益D | 共に改善の見込み

主要D | 推移



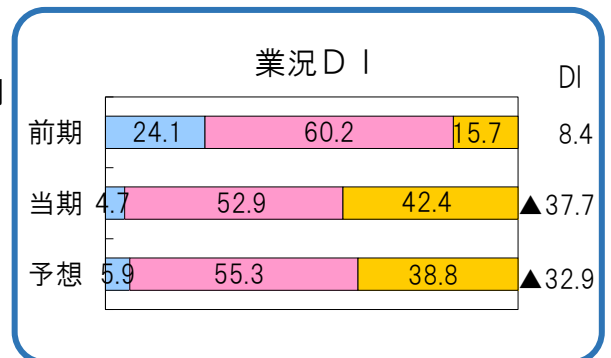
主要D | 構成



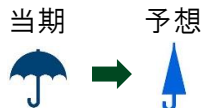
○業況D |



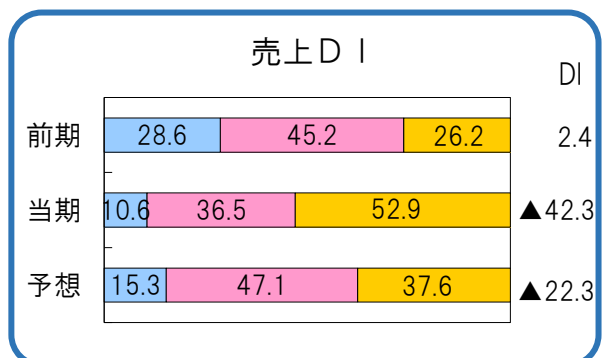
業況DIは、対前期比▲46.1ポイントの▲37.7(前年同期13.1・前回予想との差▲17.0)と2期連続悪化となりました。今後の業況DIについては、売上DI・収益DI共に改善を見込んでいることから、対当期比+4.8ポイントの▲32.9と改善を見込んでいます。



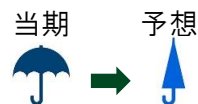
○売上D |



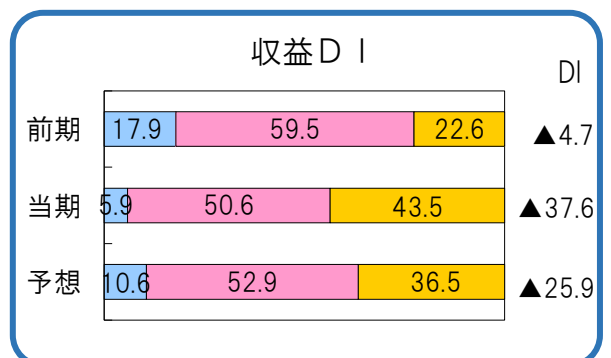
売上DIは、対前期比▲44.7ポイントの▲42.3(前年同期6.0・前回予想との▲25.6)と3期連続悪化となりました。今後の売上DIについては、請負価格DIと受注残DIの上昇を見込んでいることから、対当期比+20.0ポイントの▲22.3と大幅な改善を見込んでいます。



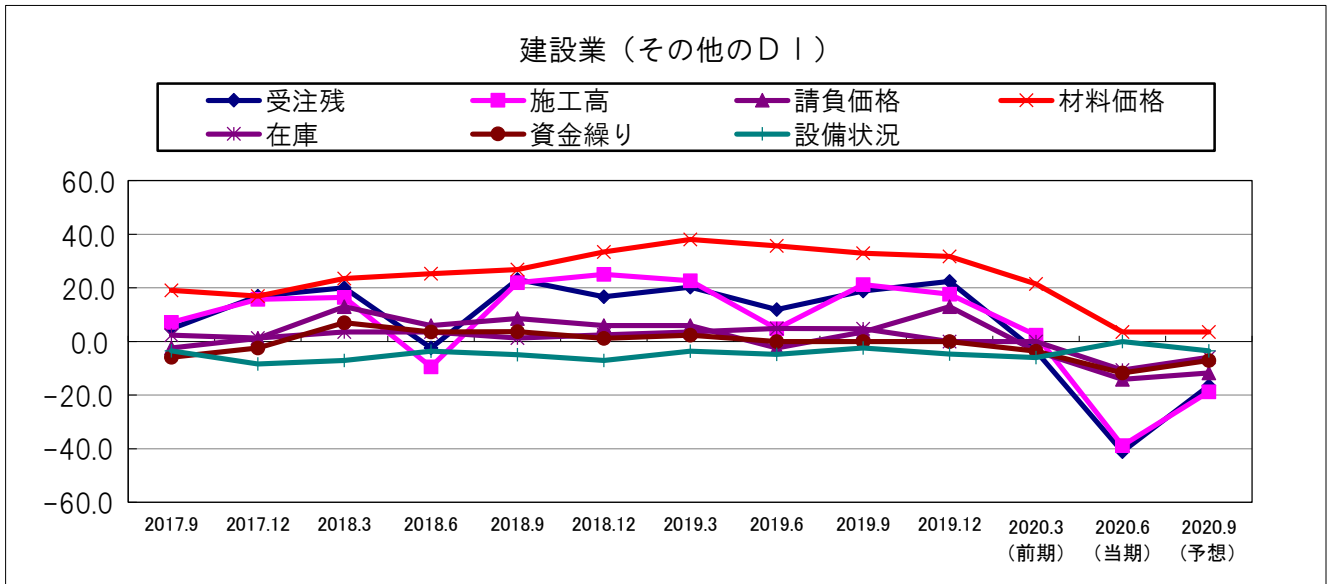
○収益D |



収益DIは、対前期比の▲32.9ポイントの▲37.6(前年同期▲4.8・前回予想との差▲18.5)と2期連続悪化となりました。今後の収益DIについては、請負価格DIの上昇を見込んでいることから、対当期比+11.7ポイントの▲25.9と大幅な改善を見込んでいます。



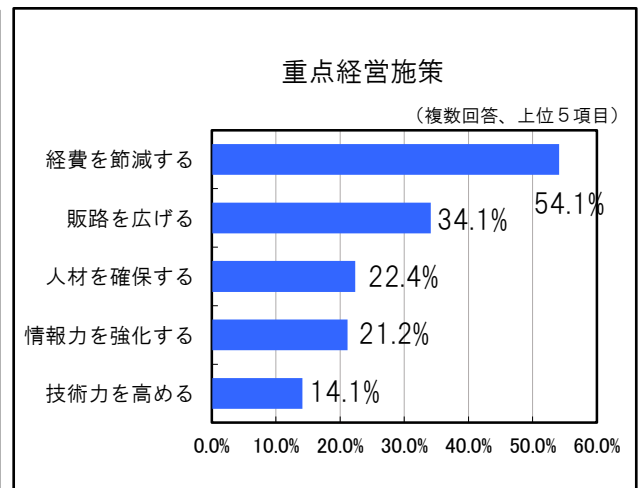
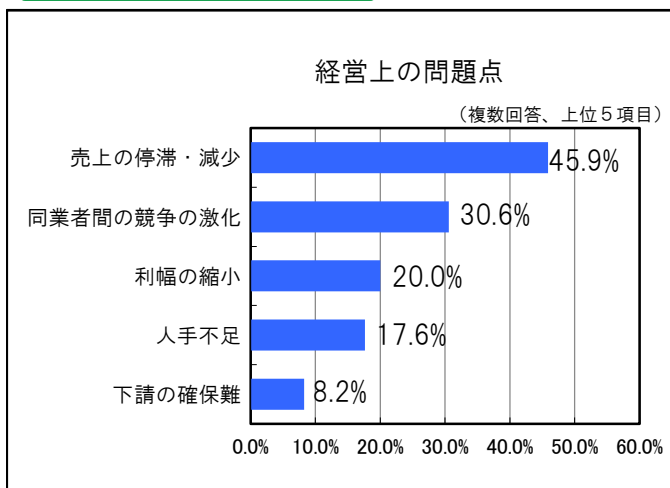
その他のD I 推移



○その他のD I

対前期比でみると、受注残DI▲37.6ポイントの▲41.2、施工高DIは▲41.2ポイントの▲38.8、請負価格DIは▲10.5ポイントの▲14.1、材料価格DIは▲17.9ポイントの3.5、在庫DIは▲10.7ポイントの▲10.7、資金繰りDIは▲8.2ポイントの▲11.8、設備状況DIは+6.0ポイントの0.0となりました。今後は、受注残DI・施工高DI・請負価格DI・在庫DI・資金繰りDIは上昇、材料価格DIは横這い、設備状況DIは低下を見込んでいます。

経営課題・重点施策



【経営課題】

経営上の問題点として挙げられたのは「売上の停滞・減少」が45.9%と最も多く、次いで「同業者間の競争の激化」30.6%、「利幅の縮小」20.0%、「人手不足」17.6%、「下請の確保難」8.2%の順番となりました。

【重点施策】

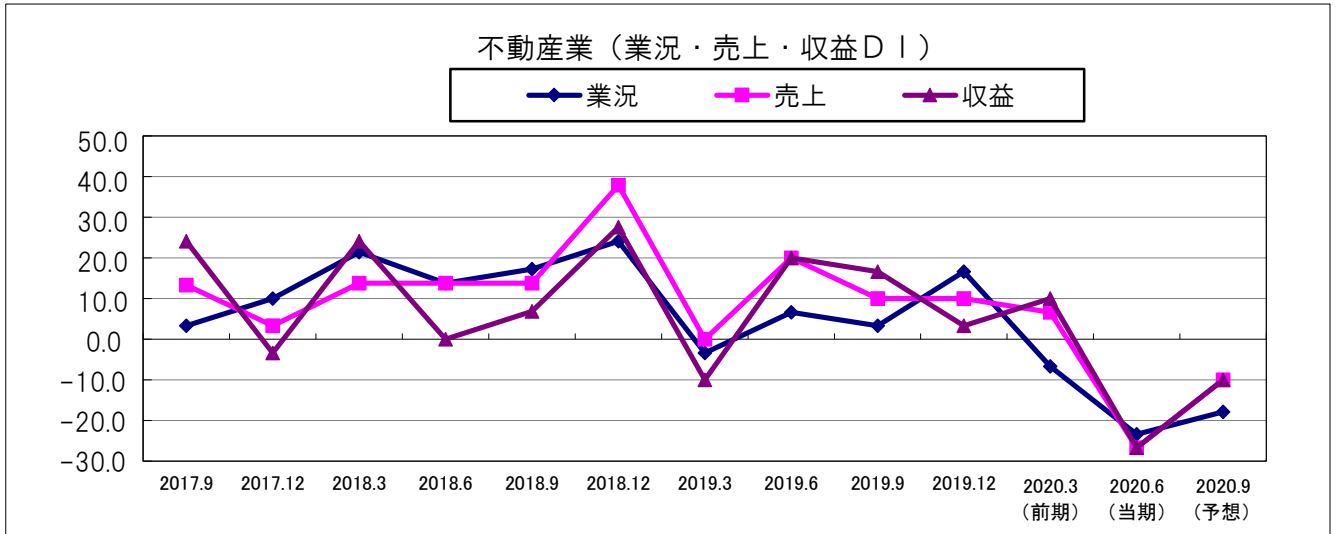
当面の重点経営施策として挙げられたのは「経費を節減する」が54.1%と最も多く、次いで「販路を広げる」34.1%、「人材を確保する」22.4%、「情報力を強化する」21.2%と「技術力を高める」14.1%の順番となりました。

不動産業

今期：業況・売上・収益D I 共に悪化

来期：業況・売上・収益D I 共に改善の見込み

主要D I 推移



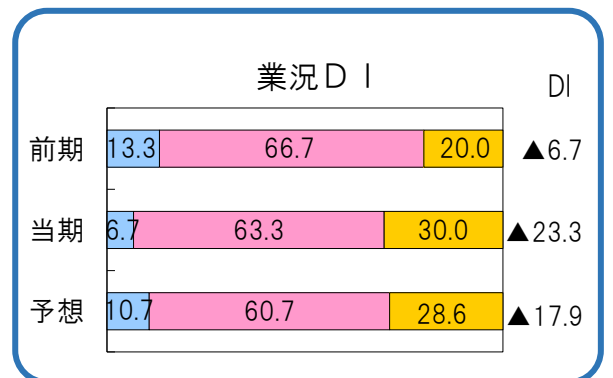
主要D I 構成



○業況D I



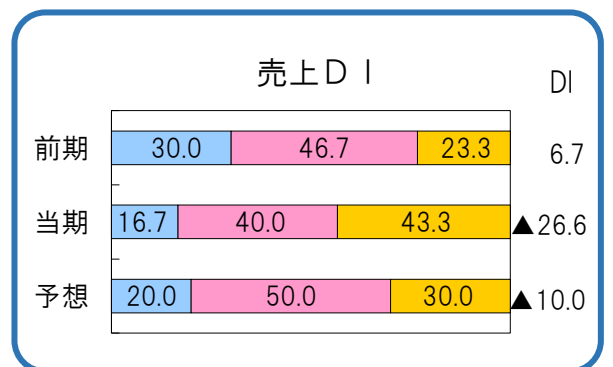
業況DIは、対前期比▲16.6ポイントの▲23.3（前年同期6.7・前回予想との差▲9.9）と2期連続悪化となりました。今後の業況DIについては、売上DI・収益DI共に改善を見込んでいることから、対当期比+5.4ポイントの▲17.9と改善を見込んでいます。



○売上D I



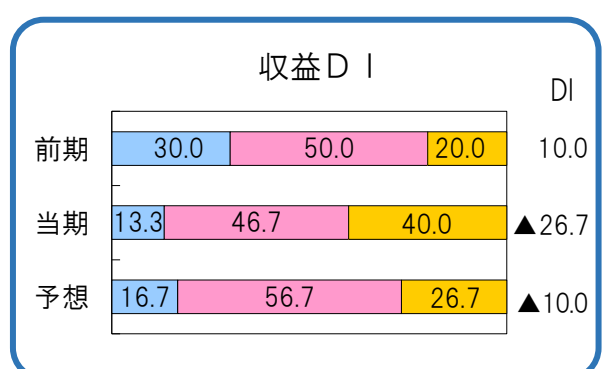
売上DIは、対前期比▲33.3ポイントの▲26.6（前年同期20.0・前回予想との差▲9.9）と2期連続悪化となりました。今後の売上DIについては、対当期比の+16.6ポイントの▲10.0と大幅な改善を見込んでいます。



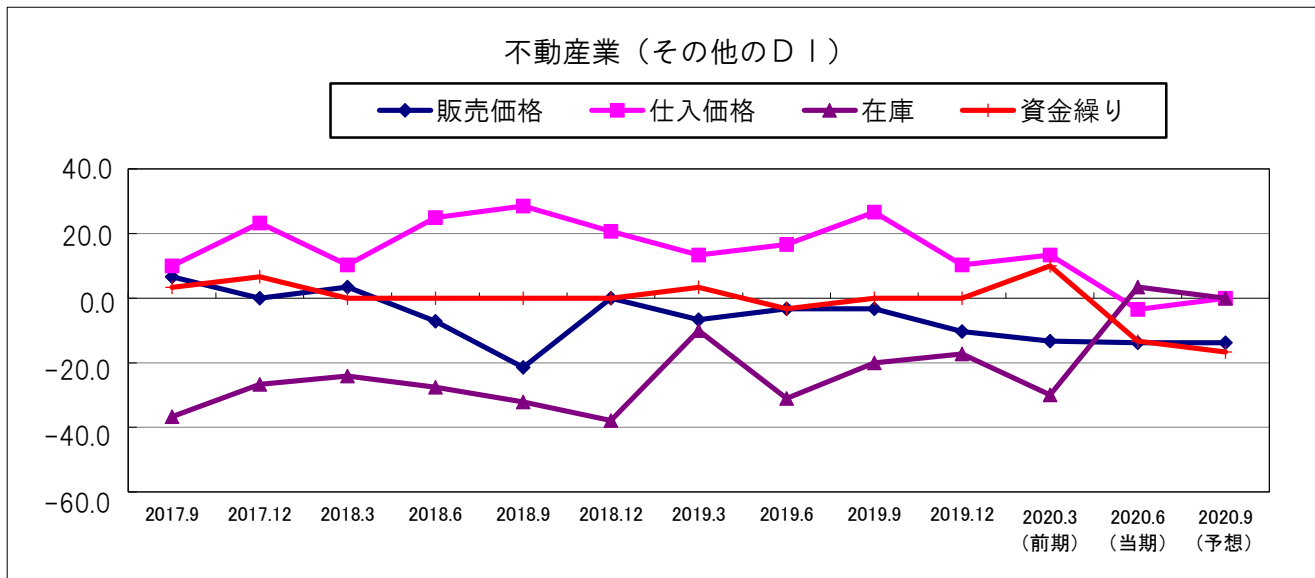
○収益D I



収益DIは、対前期比▲36.7ポイントの▲26.7（前年同期20.0・前回予想との差▲23.3）となりました。今後の収益DIについては、対当期比+16.7ポイントの▲10.0と大幅な改善を見込んでいます。



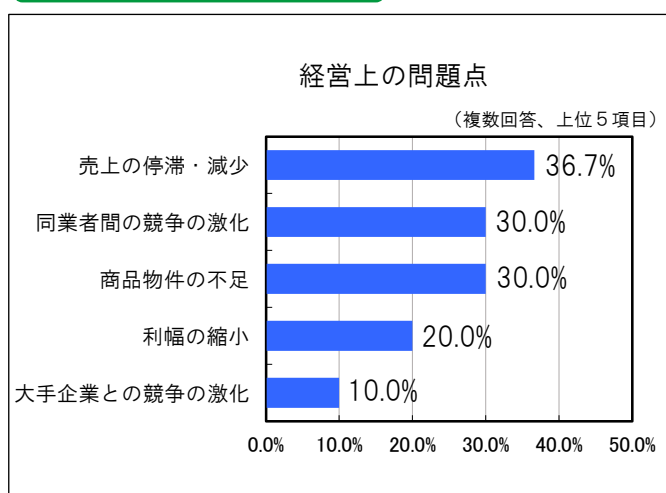
その他のD I 推移



○その他のD I

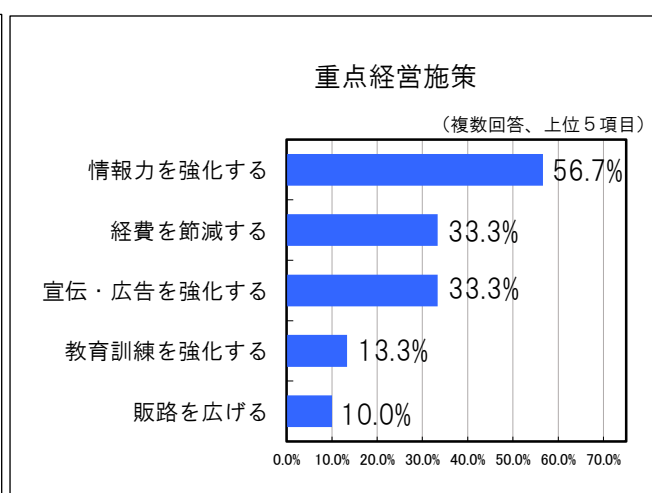
対前期比でみると、販売価格DIは▲0.5ポイントの▲13.8、仕入価格DIは▲16.7ポイントの▲3.4、在庫DIは+33.4ポイントの3.4、資金繰りDIは▲23.3ポイントの▲13.3となりました。今後は、仕入価格DIは上昇、販売価格DIは横這い、在庫DI・資金繰りDIは低下を見込んでいます。

経営課題・重点施策



【経営課題】

経営上の問題点として挙げられたのは「売上の停滞・減少」が36.7%と最も多く、次いで「同業者間の競争の激化」と「商品物件の不足」が共に30.0%、「利幅の縮小」20.0%、「大手企業との競争の激化」10.0%となりました。

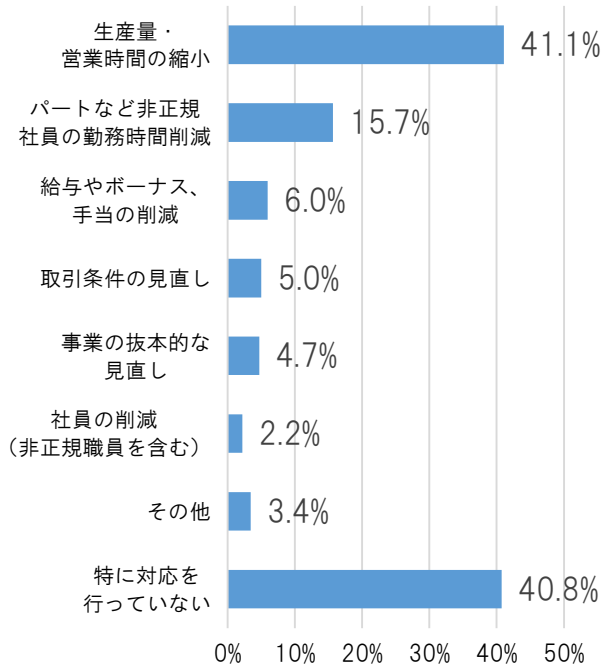


【重点施策】

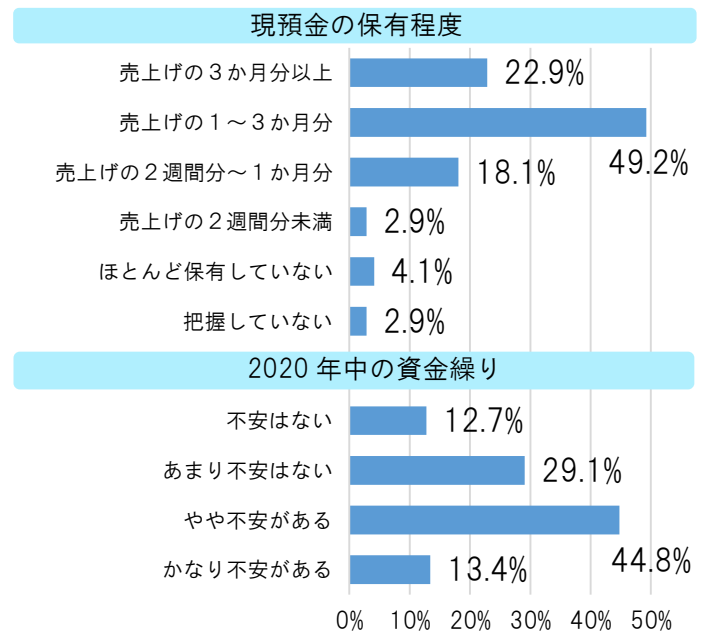
当面の重点経営施策として挙げられたのは「情報力を強化する」が56.7%と最も多く、次いで「経費を節減する」と「宣伝・広告を強化する」が共に33.3%、「教育訓練を強化する」13.3%、「販路を広げる」10.0%となりました。

単位：(%)

1 新型コロナウイルス感染拡大を受けて、どのような対応をとっていますか。
(複数回答)



2 新型コロナウイルスの影響が出る以前、現預金をどの程度保有していましたか。
(保有が最も少ない時期を想定)



【調査員のコメントから(新型コロナウイルス関連)】

○主要受注先のテレワーク実施等により、受注は活発でない。そのため夏以降の新規受注に不安がある。
(製造業)

○新型コロナウイルスの影響によりイベントが中止となり、大きな売上の柱が無くなっている状況。ペーパーレス化が進んでいる中で売上回復を図るために新たな取引先の確保が必要。
(製造業)

○飲食店等の取引先が多いため、売上減少傾向にある。取引先で人員削減するところも少なくなく、今後の業況に不安を残している。
(卸売業)

○緊急事態宣言解除後は売上げ回復を見込んでいる。キャッシュレス決済等利便性向上に努めている。
(小売業)

○手土産等の利用が多くコロナでの人の行き来がない状況で厳しい。今後も不透明であり不安を感じている。
(小売業)

○新型コロナウイルスの影響で予想より大きく売上減少。設備計画も当面凍結。
(サービス業)

○官公庁関連の受注が主体だが、民間工事の新型コロナウイルスによる受注減少により、入札業者が増え競争が激化し受注は減少。民間についても工事の延期があり受注はやや減少。資金繰りに不安を抱えているが今後の公共工事開札増加が予想され、受注回復を見込む。
(建設業)

○エンドユーザーのニーズ減少しており、閑散期における受注減少が懸念される。
(不動産業)